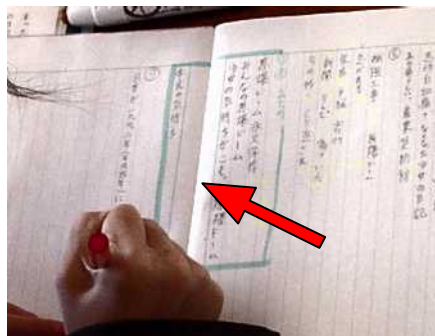


B - 2 課題とつながる

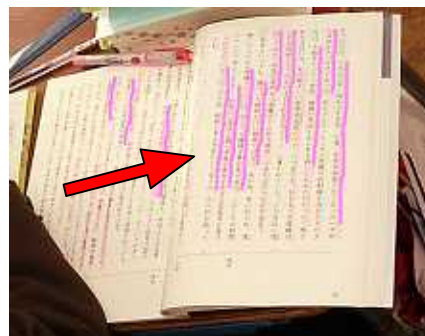
「課題とつながる」場面では、国語科では課題に対して、算数科では課題を意識しながら問題に対して自分の考えをもち、自分の考えを書く・描く段階である。そこでは、様々な活動が行われる。

(国語科の例)



「要点をまとめる」という課題で、段落ごとに要点を考えている。

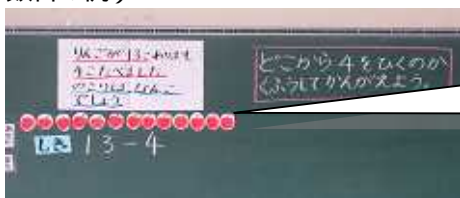
前時からの、キーワードを見つけ、それをつないで要点とすればよいという知識の活用



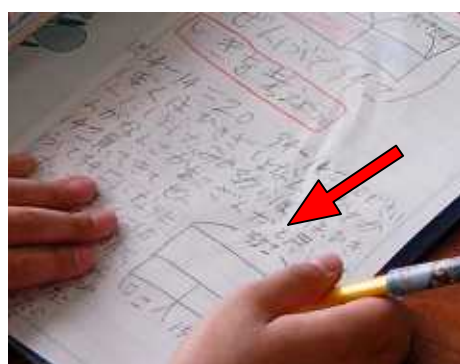
「内容を読み取る」という課題で、文章の大切だと考えたところにマーカーでラインを引いている。

課題と関連のある文にラインを引き、段落の中から際立たせるという技能の活用

(算数科の例)



低学年では、児童の考えの手助けをするため、黒板に模型を貼っている。そのことで、児童は図を描くイメージをもつことができる。



図を使うことにより、問題のイメージをつかんだり、自分の考えをまとめている。

テープ図を描いて考えるという技能と既習の学習からひき算を使えばよいという知識の活用



考えの根拠とするために、タイルを使って考えたり、自分の考えの確認を行ったりしている。
この操作が、図を描くことへとつながる。

具体物を使って考えるという技能の活用

これらの様々な児童の活動は、前学年までに習ったこと、前時までに学習したこと、経験などがもともになる。その中でも、課題または問題を解決するために児童が用いなければならないものを「活用すべき知識・技能」とした。また、指導案にも明示して、教師が意識できるようにしている。(指導案参照)